

学校物語 (国吉小の巻7)

— 三校から二校に —

余 木 令 一

旧校歌に對する挽歌のつもりで書いたその歌詞の解説は、前面まですり、打ち切

り、歴史的な出来事に移ることにしよう。

現在の国吉小学校が創立されたのは明治三十三年一月

である。

もつとも校舎が現在の地に創建されたのは明治三十五年である。

後、そのむかし寺小屋式の教場は、吉の各村落でひらかれていた。それが明治五年八月の字制頒布、同十二年の教育令、同十九年の小学校令等々の制定によつて、これらの教場は一つ消え、二つ閉ざされ、という具合にだんだん減つて、ついに万木、楽町、荻谷の三校に

しほられた。明治二十二年になると従来八つの村落が合併し、新たに国吉村として発足した。そしてこれを転機として万木校と楽町校とが更に統合し、結局二つの学校舎を建てたので、結局二つの学校におちつくこととなつた。荻谷地区に存する学校を国吉南尋常小学校といひ、楽町のそれを国吉北尋常小学校と呼

ぶ。このことは時世の進展につれ、然の推移と考えられる。しかし、この町なり村なりに同じ程度の学校の近接してならび存することは、つよめ、たがいにみずからを時によめ、たがいにみずからをます効果をしめすが、ともすると悪い面が首をもたげ、対立意識がふかまつて、にらみ合いのケンカ騒動をくりかえすことになり勝ちである。

万木、楽町、荻谷の三学校が鼎立して、いりつ、していたときは、本足のよう、けんせいはよく、おたがいに、けんせいはよく、たので、平穩無事の月日をおくることとができたものだ。これが二校にまとまると、折からの教育熱も加わつて生徒数がそれぞれ増加してきたので、これがまた対抗意識や敵対感情をおおる結果となつた。余談だが、政治についても同じよう、なことがいえるであらう。俗にいう三頭政治といつて三人の共同権力者が独裁的に政治を行なうときは、国がよくおさまる。だが、そのうちの一人が消え去ると、一両雄ならび立たず、一人のことわざ通りで混乱する。歴史はいつもきまつてこの事実を物語つてゐる。これは、この事に於ける生徒同士の争いは、なやかに展開されるのだが、そのことは後にさかのぼつて、国吉南尋常小学校にさかのぼつて、国吉南尋常小学校々々舎建設にからむ挿話(エピソード)から伝えることとしよう。